

平成24年度 学校評価

平成24年度 「自己評価」

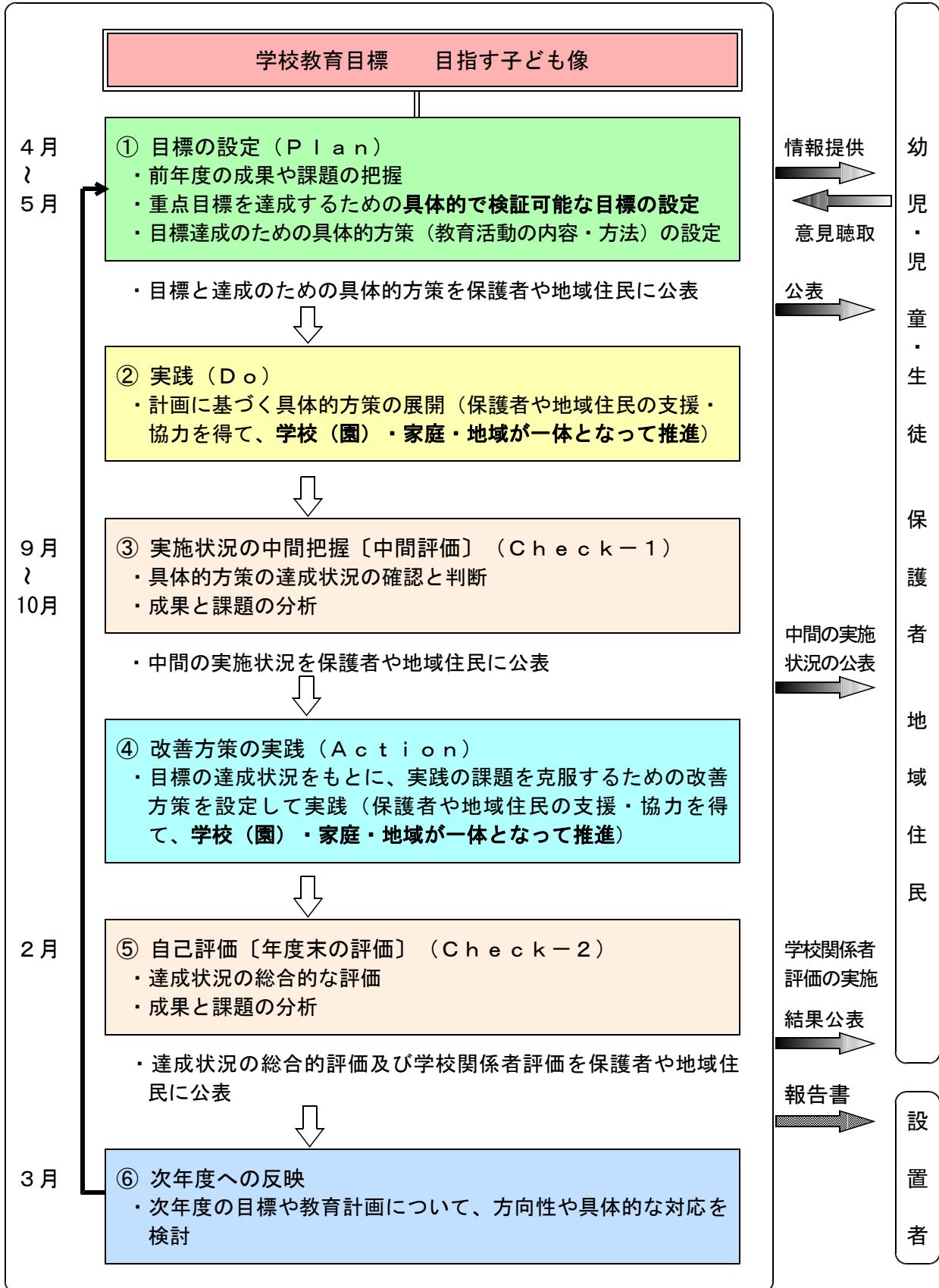
・生徒指導・地域連携 p 3

・学力向上・進路指導 p 5

・特別活動の充実 p 7

秋田県立新屋高等学校

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」
 (秋田県教育委員会 平成20年6月)

平成24年度 新屋高等学校の経営方針

1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、真理を希求する心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「自尊 自知 自制」の校訓のもと、社会の幸福に貢献できる有為な人材を育成する。

2 教育方針

- I 基本的生活習慣の確立 豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成
- II 学力の向上 強い目的意識と高い学習意欲をもち、不断の向上を目指す人間の育成
- III 特別活動の充実 健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成
- IV 進路の早期決定と実現 早期に進路決定に取り組み、その目標に向かって真剣に努力する人間の育成

3 経営方針

I 教育目標実現のため、「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律性に富む人間の育成を図る」ことを本校教育の基本的立場とする。

II 重点目標

- 1) 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動のできる心豊かな生徒を育てる。
 - ①地域の学校であることを自覚し、地域の人達から信頼され、評価される生徒を育成する。
 - ②校内外で、挨拶、整容、ルール、時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。
 - ③家庭と連携し、規則正しい生活と、必ず朝食を摂る習慣で、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。
 - ④危機意識をもって危険回避を常に心がける生徒、および何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動のできる生徒を育成する。
 - ⑤SCや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導ができる体制作りに取り組む。
- 2) 学力向上を図る学習指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。
 - ①朝学習を10分間とし、心を落ち着かせて授業に取り組ませることで、学力向上につなげる。
 - ②3分前行動・ベル即授業を励行し、授業の密度を高める。また、机上に不必要なものを置かないなど、集中力を高める工夫を行う。
 - ③評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。
 - ④教科学習オリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。
 - ⑤授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習のあり方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まであきらめない精神力を養う。
 - ⑥「休養日」の設定や、部活動終了時間の厳守などにより、学習時間の確保に努める。
 - ⑦教室内環境の整備、校内環境の美化、教室配置の見直し、利用しやすい施設・設備の整備・改善などに取り組み、学習に適した環境作りに努める。
- 3) 生徒会活動と部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。
 - ①生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるように指導する。
 - ②日々の練習をとおして、主体性や協調性、最後まで頑張り抜く気力・体力を養う。
 - ③新高の新たな歴史を築く気概を持って、新高生としての本分を十分尽くせるよう、生徒の自覚を促すとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。
- 4) キャリア教育の充実を図り、自己の進路目標に真剣に取り組む生徒を育てる。
 - ①担任は1年次よりキャリア教育を充実させ、生徒による自主的な進路目標を作成し、進路実現のために具体的な事項を設定した指導を実施する。
 - ②学年部は生徒一人ひとりの進路目標達成のために最善の努力を行い、生徒の主体性を尊重しながら、適切な指導を行う。
 - ③部活動顧問は部活動の目標が、その生徒の個性を伸ばし人格の陶冶のために存在することを肝に銘じ、部活動で培った強い精神力をとおして進路の実現を図らせる。
 - ④進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、あらゆる機会をとおして生徒の多様な進路希望に対応する場を設定する。
 - ⑤「総合的な学習の時間」を、キャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間として活用する。

重点目標	自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。	P
現 状	これまで重点的に基本的生活習慣の確立に取り組んできた。特に整容面や挨拶の励行など一定の成果を上げている。全体としては落ち着いた雰囲気の下で学校生活を送っている。しかし、自転車事故が年々増加し、いずれも被害者ではあるが、時と場合によっては加害者になる恐れがあることを十分認識させ交通ルールの遵守も含め規範意識を高めさせる必要がある	
具体的な目標	①マナー集会の実践 ②正しい制服の着用の徹底 ③携帯電話に伴う非行・事故防止と、問題行動発生時の適切な対応 ④地域社会との密接な連携を取った生徒指導。	
目標達成のための方策	①全校集会においてパワーポイントを使用し学校内外でのモラルやマナーを説明する。 ②毎朝の昇降口指導、定期的な整容指導で正しく着用させる。 ③定期的な集会時などで注意を喚起する。問題行動発生時に備え定期的な指導部員の意思の疎通をはかり、発生時には迅速な対応と保護者への丁寧な対応を心がける。 ⑤定期的な地域社会との情報交換を行い情報収集を怠らない。	D
具体的な取組状況	①4月、新入生を迎え直ぐに全校集会を開きスクールマナー集会を開催。挨拶の仕方、言葉遣い、制服の着用、学校生活、登下校のマナー、携帯電話の使い方などきめ細かく事例を挙げて徹底させる。 ②全職員による年4回の昇降口指導をはじめ、毎日職員、生徒（部活動・委員会）が昇降口に立って遅刻防止や挨拶励行を指導する。 ③集会時には必ず問題行動に関する事例を挙げ注意を促し、全校一斉に行われるアンケートの状況をきめ細かく分析し、問題行動の未然防止に役立つ。また、定期的に発行する生徒指導部だよりで学校の取り組み及び情報を提供する。 ④清掃ボランティアを実施し、働く喜びを知ると同時に、地域住民とのかかわりを深め、地域の一員としての自覚を持たせた。二年教養コースの学校設定科目「地域コミュニケーション」では地域との交流を実践した。	
達成状況	①1年生はもちろんだが2、3年生にとっても効果がある。先生方に対する言葉遣いや職員室入室時などの挨拶や言葉遣いも適切に使い分けるようになる。 ②女子のスカート丈が若干気になる。概ね制服の着用に関しては良好である。 ③規範意識を高めるために集会時の注意や毎朝の昇降口指導で生徒の状況を把握する事によって、事故の未然防止に繋がっている。 ④地域の方々や保護者とのかかわりを深める中で「新屋で生活をする一員としての自分」という視野を持つ生徒が増えている。また、新高通信やホームページに、生徒の原稿を多く取り入れるようにして、地域の方々に親しみやすい情報提供を心がけている。	

自己評価	(評価) B	(根拠) ①初めての取り組みであったが効果は十分あった。特に、場面に 応じた挨拶や言葉遣いなどは適切に使えるようになったことや、 携帯電話の使い方、モラルやマナーなどの問題行動は未然に防 止された。しかし、自転車事故が昨年度より多発したことに 関しては交通ルールに関しての規範意識向上と命の大切さにつ いて再度指導する必要がある。年度当初と3年生が就職、進学試 験に臨む前と年2回行えれば最適と考える。 ②定期的な整容指導と毎朝の昇降口指導で生徒の状況を把握する 取り組みは粘り強く行えたが、女子のスカート丈についての指 導に甘さが見えた。 ③年々スマートホンを使用する生徒が増加し新たな問題が発生し かねない状況になってきた。先行する技術や生徒の使用技術に 対してどのような指導をしていくべきかが課題である。問題行 動発生時に対する対応は迅速に行い、保護者に対しても誠意あ る対応を心がけた。 ④学校周辺の巡視の際に校外での生徒の生活状況を把握し、学校 側からの情報も伝えるなど連携を図れた。	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評 価と意見	(評価) B	以前と比べると交通ルールや、社会的マナーでは格別の 改善が見られ、生徒、教職員、保護者、3者の強い絆によ る成果であると思う。しかし、校外でのあいさつはこちら から挨拶をしなければできない生徒も見受けられるので自 主的、自律的態度の育成に重点を置き、より一層先生と、 生徒の信頼関係を構築した指導に当たって頂きたい。ま た、「先生方が悩みをしっかりと聞いてくれない」と考える 生徒が20%いることを軽視せず、本当に問題を抱えた生 徒がいなか聞く努力が必要と考えます。 地域とのコミュニケーションはできればもっと積極的に 、固定された生徒だけではなく多くの生徒に参加の機会 を与え、地域に根ざした学校作りを進めて頂きたい。	C
----------------	---------------	---	---

自己評価及び 学校関係者評 価に基づいた 改善策	規範意識を高めた生活態度に関しては、年々向上してきた。しかし、自転車による 交通事故に遭う生徒が後を絶たず、被害者とはいえ、交通ルール遵守、危険を回避す る能力の育成が、これからはより一層求められると考えます。また、校内において も、校則違反するような生徒はあまり見受けられないが、自ら進んであいさつをし たり、ボランティア活動に積極的に参加したりなど、主体性のある生徒が少ないよ うに感じることから、生徒が人前で活躍できる場面を作り、そこで成功体験をさせ ることによって「生きる力」が育つと考えます。生徒指導は、挨拶や丁寧な言葉づ かい、正しい制服の着用、社会のルールを守るなど、重点目標は沢山ありますが、目 指すところは「思いやりの心」を育てる事だと考えます。生徒の心に目と耳をかた むけ、きめ細かな指導にあたりたいと思います。	A
-----------------------------------	---	---

重点目標	学力向上を図る指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。	P
現況	これまでの学校評価では進学対策と並び授業改善や家庭学習の定着が重点課題とされてきた。授業改善については様々な取組みが実施されているが、家庭学習の定着については、なかなか有効な手立てが見つからない。しかし、基礎学力の定着と学力の一層の向上は進路の如何を問わず求められるところであり、特にここ数年、進学志望者が増えていることから確実な進路実現のためキャリア教育の充実が求められている。	
具体的な目標	①キャリア教育の充実と授業改善 ②家庭学習の習慣付け ③部活動との両立 ④進路目標の早期設定と実現	
目標達成のための方策	①キャリア教育・授業改善…将来の目標をしっかりと持たせた上での学習指導と進路指導。授業力向上のための互見授業の実施。ベル着・ベル授業の徹底。学習環境改善。 ②家庭学習の習慣付け…教科学習オリエンテーションの充実等で自学できる態度・習慣を培う。授業に活かせる宿題・課題の工夫。朝学習による自学・自習の定着。 ③部活動との両立…学習時間や「休養日」の確保。夏・冬休み始めの「学習強化期間」の実施。全員受験模擬試験・資格試験の実施（1年・2年・3年）。 ④進路目標の早期設定と実現…進路講話、進路別ガイダンス、総学の活用等。進路行事の保護者参加。二・三者面談の充実。キャリア個人カードの活用。1年生「キャリアプラン」実施、2年生「オープンキャンパス」参加。進路通信発行。キャンパス訪問・職場訪問の実施。キャリアアドバイザーによる積極的な支援。	
具体的な取組状況	①授業改善に結びつくような評価項目に基づいた授業アンケートを2回実施。互見授業週間を2回設け授業力向上を図った。ベル着・ベル授業の徹底を図った。 ②1学年全体への教科オリエンテーションの実施。2・3年生に対しての教科担任によるシラバスを配付しての教科オリエンテーションの実施。 ③週1日の休養日「ももさだの日」を継続。1・2年生に、全員模試3回とTOEIC-Bridge1回を実施した。 ④進路講演会、進路別ガイダンス、三者面談の充実。職業講話を含めたキャリアアドバイザーの積極的支援があった。学習強化期間、朝・放課後・土曜補習の充実。	D
達成状況	①授業改善については、11月の互見授業の中で3教科の研究授業を行い、秋田西、勝平、御野場の近隣3中学校の教員による授業評価も実施した。昨年度からの取り組みである中学校と高校が連携した授業評価は各教員にとって刺激となっている。 ②家庭学習にしっかり取り組んでいる生徒がアンケートより70%で推移している。 ③全員模試（年間3回）により客観的なデータは3年間の進路指導の指針となっている。東進模試やTOEIC-bridgeも導入し、早期から進路目標設定を図れた。 ④進路講話や進路ガイダンスは、生徒たちにとっては進路目標の設定のみならず、職業観や勤労観などキャリア教育の育成にも結びついた。1年生全員の3大学キャンパス訪問、2年生職場訪問により進路意識の高揚と理解が図られた。キャリアアドバイザーによる就職志望者への指導が、高い就職内定率に結び付いた。	

自己評価	(評価) B	(根拠) ①授業改善では昨年度に引き続き、「互見授業」の中で中学校と高校が連携した形での授業評価を実施することができ、授業力向上という点で成果があった。 ②家庭学習の習慣づけについては何年も前からの課題である。生徒アンケートによると、ある程度家庭学習の習慣づけもできてきているように見えるが、学習時間調査では、家庭学習の時間がまだまだ不足している結果が出ている。一層の家庭学習習慣の定着を図る必要がある。 ③部活動との両立は、週1日の「休養日」や長期休業中の「学習強化期間」を設定し、学習時間を確保できた。全員模試によりデータが蓄積できている。「休養日」は効果的に機能して、各学年月曜補習を実施している。 ④総学等で計画的に実施した進路行事や面談等が進路目標の早期設定と実現のために全般的に役立つと評価されていることが、生徒・保護者のアンケート結果から読み取れる。ただし、進路実現のための学習活動について、1・2年次から目標に沿った計画を立てて実践している生徒がまだまだ少ないことが課題である。	C
------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	一昨年度から取り組んでいる互見授業等は授業改善に結びついていると思うので継続していただきたい。家庭学習の目的を生徒一人ひとりに徹底してほしい。自己実現のためという観点から、より高い目標を目指して努力できる生徒を育てていけば、自ずと家庭学習にも身が入っていくだろう。教科書等の勉強道具を毎日持ち帰る習慣づけの指導も大切である。補習授業等熱心な指導をしているが、「進路目標を持って意欲的に授業に臨む」ことができないと回答する生徒が少なからずいるのは問題である。また、就職先・進学先を途中で辞めることのないよう、学力だけでなく忍耐力向上にも努めてほしい。	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	授業改善については、次年度も「互見授業」を継続し、後期では引き続き近隣4中学校（秋田西中・豊岩中・御野場中・勝平中）と連携した授業研修を行い、さらなる本校教員の授業力向上を図りたい。家庭学習習慣の定着については、各科目の予習・復習のさせ方や週末課題の出し方等について、三年間を見通した適切なあり方を教科会で再検討していきたい。各学年で進路検討会を開いて情報交換を密にし、進路目標設定のために担任だけでなく学年全体でアドバイスができるようにしたい。また、学年・学校全体で「みんなで勉強する」という雰囲気醸成するために、補習出席率向上のための諸施策を講じたり、進路通信等で定期的に目標を持つことや学習の大切さを訴えるメッセージを発信していきたい。	A
-----------------------	---	---

重点目標	健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成。	P
現 状	本校は創立29年目の学校であり、まもなく節目の30周年を迎える。これを機に母校に対する誇りや意識を一層高めるには部活動が重要との認識から、強化指定部を中心に部活動の活性化に取り組んできた。とりわけ文化部では吹奏楽部や理科研究部、運動部ではサッカー部・弓道部・剣道部・バドミントン部などが全国・東北大会等での活躍が期待されている。生徒会活動としては、学校行事の充実はもちろん、地域ボランティア活動にも積極的に参加している。	
具体的な目標	①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達	
目標達成のための方策	①生徒会活動の充実・・・生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるよう指導する。 ②部活動の活性化・・・全県はもとより、東北・全国レベルで活躍できるよう、予算面も含め、学校全体として応援体制を整備する。 ③心身の調和した発達・・・勉学や部活動に、高校生としての本分を十分に尽くせるよう、生徒個々の自覚を促すとともに、それを支える学校としての支援体制を整える。	
具体的な取組状況	①生徒会長を中心に、執行部による長期を見越した体制づくりが進んだ。また地域の祭りやリーダー研修会に積極的に参加したり、壮行会等で司会進行を務めるなど活動の充実を図った。 ②各部顧問を中心に練習計画（遠征・合宿を含めた）の工夫・充実や具体的目標の設定、外部コーチの積極的活用、部員の意識改革等により、一層のチーム力向上・強化に取り組んだ。 ③「休養日」「学習強化期間」により学習時間確保に努めた。また限られた予算の中で、部活動後援会費や特別助成費等で、より活動しやすい環境づくりに努めた。	D
達成状況	①生徒会活動では、オープンスクールでの学校紹介やリーダー研修会参加、韓国ソウル高校ホームステイ受け入れ、こでん（小型電気機器）回収協力などの他、日吉神社の祭礼やあらや大川散歩道雪祭りへの参加、栗田養護運動会運営ボランティア等、地域との交流に力を入れている。新高祭では、全校生徒の要望を取り入れ、新たに後夜祭を企画、実施した。 ②今年度、全国大会ではサッカー部とバドミントン個人でインターハイ出場、吹奏楽部が日本管楽合奏コンテストに出場。東北大会（新人戦含）にはサッカー部・バドミントン部・女子テニス部・水泳部・弓道部・剣道部・吹奏楽部が出場した。理科研究部は昨年に続き斎藤憲三顕彰会研究助成の認定を受けている。 ③「休養日」「学習強化期間」の趣旨が定着し、学習と部活動の両立を目指す生徒が取り組みやすい環境が整ってきている。	

自己評価	(評価) B	<p>(根拠) 本校の教育目標の一つである部活動の活性化について、部活動後援会費や特別助成費等により、限られた予算の中で強化費の配分や遠征費補助等を行い部活動強化を支援した。各部においても練習計画の工夫・充実や具体的な目標の設定、外部コーチの積極的な活用などを通してチーム力の向上・強化に取り組んだ。</p> <p>①生徒会活動では、新高祭はじめ各種生徒会行事の立案、企画および運営などの中心的活動をした。また、学校の代表として地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めた。</p> <p>②全国大会に出場したサッカー部やバドミントン部をはじめ、東北大会には多くの部が出場した。この経験を活かし更に上位に進出できるような強化策や学校全体での支援体制の確立が必要である。</p> <p>③休養日(ももさだの日)や学習強化期間の定着により学習時間がある程度確保できるようになった。部活動と進路目標の実現を両立させるため、生徒個々の意識を一層高めていくことが重要である。</p>	C
------	---------------	---	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p>特別活動は活発に行われており、全国大会進出等の成果を上げている。また、部活動と学習の両立を図る施策を講じていることも評価できる。さらに上位進出を目指して努力し、成果を出すことにより自信や誇り、愛校心や帰属意識を高揚し、また地域の関心を集めることができる。ただし、勝利至上主義に走るあまり、指導の行き過ぎがないようにするべき。部活動は社会にでるための勉強の場であり、自主性や精神面の鍛錬の場である。文武両道の本来の意義を考えて取り組んでほしい。生徒会は、地域行事に積極的に参加してもらい感謝しているが、校内でもあまり知られていないのが残念。清掃や仮装行列等もっと宣伝してほしい。</p>	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>生徒会活動については、学校行事の円滑な運営とともに、全校生徒の意見や要望を生かした企画を検討するなど、生徒の発想による自主的な活動の場を増やしていくこと。また、地域との交流を深めるため、恒例になっている地域行事への参加に一般生徒も巻き込んだり、学校行事を積極的に地域に周知する工夫が必要である。</p> <p>部活動では、全体的なレベルの底上げや活性化とともに、限られた予算や施設環境の中で、全国大会や東北大会で活躍できる部を育成するため、強化指定部の見直しや予算の適正配分など、学校としてある程度の絞った支援体制を確立することが重要である。また、各部での指導が適切であるかチェックできる機能を検討するべき。</p> <p>休養日や学習強化期間が定着し、部活動に入っている生徒もある程度学習時間を確保できるようになったが、保護者アンケートの結果では部活動と学習の両立について否定的な回答も多い。限られた時間を有効に活用するため、部活動の目標とともに各自の進路目標に対する意識を高める指導が求められる。</p>	A
-----------------------	---	---